

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24242029

研究課題名(和文) 社会主義期東欧ロシアの歴史学

研究課題名(英文) Historiography in Eastern Europe during the Socialist Era

研究代表者

渡邊 昭子 (Watanabe, Akiko)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20293144

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,900,000円

研究成果の概要(和文)：社会主義期東欧ロシアの歴史学について、基本的な情報を調査し提示するとともに、個別テーマを設定して分析した。各地域の歴史研究を検討するうえで歴史学の専門誌は重要な基礎となることから、参加者が担当地域での歴史学雑誌や歴史研究の公開媒体について、社会主義期を中心に調査して検討した。個別テーマでは、歴史叙述の歴史や、歴史学を支えたり規定したりする機関、そして個々の歴史家などを取り上げて検討した。

研究成果の概要(英文)：On the historiography of Socialist Eastern Europe, basic information was investigated and presented, and individual themes were set and analyzed. Because historical journals are an important medium for considering the history research, we surveyed the history of historical journals of each region. In the individual theme, the members of the project examined the history of historical description, individual historians, and institutions that support and/or regulate historical studies.

研究分野：ハンガリー史

キーワード：東欧史 ロシア史 史学史 社会主義期

1. 研究開始当初の背景

本研究に先行するプロジェクト「東欧ロシア史学史研究の総合」では、日本で比較的研究蓄積の乏しかった東欧ロシア地域の史学史に取り組み、ニーデルハウゼン・エミル著『総覧 東欧ロシア史学史』で言及される1万件近くの文献情報を収集整理し、さらに同書を訳出した。この『総覧 東欧ロシア史学史』は社会主義期が始まる前までの時期を扱っており、社会主義期以降についてはまとまった情報が得られなかった。

この先行した共同研究は、東欧ロシア各地域を専門とする研究者の協力を得て進められ、そこで議論を重ねるなかで、東欧ロシア地域については、長期的な趨勢としての地域的特性に加えて、社会主義期の政治、経済、社会面での類似性を背景として、歴史学でも共通に論じられる多くの面があることが明らかになってきた。このため、社会主義期の歴史学を対象にした共同研究の必要性を感じるようになり、本研究を組織するに至った。

2. 研究の目的

本研究は社会主義期の東欧ロシア地域における歴史学を対象とする。研究内容はおもに二つに分けられる。第一点は、基礎的な情報を収集、整理することであり、第二点は、それらを基にして、テーマ別に分析をおこなうことである。日本においては研究蓄積が少ない分野であることから、まずは基本となる情報を調査し、さらに、今後の研究の足がかりを形成することが目的である。

基礎研究としては、現地での研究動向を調べ、論点を整理し、史料の可能性を探る。社会主義期に活動したおもな歴史家とその伝記、自伝、回想録等を調査し、その作品と作品についての議論を調査する。ならびに、歴史研究が拠点を置いていた大学やアカデミーなどの研究機関ならびに学会組織、研究発表の媒体となる定期刊行物、通史や史料集の編纂事業等、当時の研究基盤のあり方と変遷も調査する。

テーマ別分析については、以上のデータを得たうえで、研究参加者が個別の問題を取り上げて論じる。歴史研究をおこなう者としての歴史家に焦点を当てる場合には、問題関心、歴史家間の関係、体制との関係、国際的な会議や共同研究等における国外の歴史家との情報交換、さらには亡命史学の役割、歴史研究のネットワークなどがポイントとなる。また、歴史研究の基盤となった組織や雑誌については、組織・運営・内容やそれらの変化等について検討する。いずれの場合でも、社会主義期の歴史学を考える上で、歴史叙述とマルクス主義イデオロギーとの関係を見逃すことはできない。叙述の形式やテーマ設定に対するイデオロギーの影響を考察することは、同時に、制

度化された検閲や自己検閲という問題として論じることでもできよう。ソ連史学の影響についても論じられる。ただし、マルクス主義イデオロギーに関しても自明のものとして捉えずに、時代や地域による受容の度合いや変化についても視野に入れる。

当然のことながら、本研究は社会主義期を固定的に捉えるものではなく、前後の時代との連続性や社会主義期間内での変化も重視するものである。

3. 研究の方法

まず、先行したプロジェクト「東欧ロシア史学史研究の総合」をテーマに小シンポジウムを開催し、本研究に向けて背景の確認と問題提起をおこなった。

実際の研究の中心は、現地の図書館での文献調査と文書館での史料調査となる。並行して、現地研究者を訪問して研究動向についての情報を得るとともに、社会主義期に活動していた歴史家へのインタビューもおこなった。

5年の期間のうち、前半の2年間は基礎調査に重点を置いて研究を進め、後半の3年間はテーマ別分析に重点を置いた。参加者は1-2年に一度は現地に渡航し、前半はおもに図書館で文献の調査を、後半は文書館等で史料を中心とした調査をおこない、各地の研究者と最新の情報を交換した。そして毎年1回研究打合せ会議を開催して、各自の研究成果を報告し、全員で検討した。

調査と分析を進めるなかで、歴史学の主要雑誌を取り上げる参加者が複数現れたことから、これを共通テーマの一つとして設定し、各地域の情報を持ち寄って比較検討することにした。

4. 研究成果

各地域の史学史を調査するうえで歴史学の専門誌は必須であるという基本的な認識を参加者間で共有でき、また一方で、社会主義期以降の各地域の歴史学の専門誌について日本でほとんど研究がなされていないことも確認された。このため、主として国ごとに、歴史学の主要雑誌について分担調査した。ルーマニアの『史学雑誌』については、刊行の歴史、社会主義期の内容と傾向、隣国の歴史学界との議論などについて明らかにした。このほかに、ソ連の『歴史の諸問題』、ハンガリーの『世紀』、ポーランドの『Acta Poloniae Historica』、『歴史季報』、『ユーゴスラヴィア史学雑誌』など各国の主要雑誌、ならびに、エストニア、モルドヴァなどソ連内のいくつかの国における歴史研究の公開媒体とそれを支える組織についても調査して、基本情報や社会主義期の変化などをまとめた。社会主義期には、西側の各地で、亡命者による歴史研究がみられたことが特徴的である。これについてはハンガリー人亡命者による雑誌

『新視界』 『ハンガリー人の工房』 『ハンガリー・ノート』を取り上げて検討した。

個別テーマとしては、後述の各論考にみられるように、(1)歴史学や歴史叙述の歴史を対象とした研究、(2)歴史研究や叙述の基盤となる組織を取り上げた研究という二つの面で主要な成果を得た。(1)については、史学史の捉え直し、専門的歴史学による歴史叙述とより広い意味での歴史叙述の関係の考察、歴史教育と歴史教科書を対象とした、政策ならびに教育内容の変化についての研究が著された。政策に関しては、社会主義期において、そして社会主義期を対象とした時期についての国民的記憶の形成努力が論じられた。(2)については、歴史記憶を管理する機関の創設と活動や、文書館の活動とその史料の消失についてなどを取り上げた。

ハンガリーでは、これまでもオーラル・ヒストリー・インタビューをおこなってきた研究協力者が、おもに党史研究所に所属していた歴史家たちに長時間にわたるインタビューをおこない、文字化した。そこからは、経歴、活動、上司や同僚や党との関係、イデオロギーや党史研究所の位置づけなど、種々のテーマにわたる具体的な語りを得ることができた。一部のインタビューの抜粋は後述のホームページに掲載されている。

以上のように、本プロジェクトの成果としては、社会主義期東欧ロシアの歴史学について、まず、研究の公開媒体、研究組織、歴史家などの基本情報を提示したこと、関連する個別のテーマを取り上げて分析したこと、そして、これらの研究により、今後比較検討すべき多くの課題をも提示したことがあげられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計31件)

中島崇文、社会主義期ルーマニアの『史学雑誌』に表明された西の隣国と異なる歴史認識：ハンガリーの『トランシルヴァニア史』(1986年)への反論をめぐって、学習院女子大学紀要、査読無、19巻、2017、123-144

<http://hdl.handle.net/10959/4120>

鈴木健太、書評：マーク・マゾワー著 / 中田瑞穂・網谷龍介訳 『暗黒の大陸 ヨーロッパの20世紀』(未来社、2015年12月)、東欧史研究、査読無、39巻、2017、93-100

吉岡潤、ポーランド：国民記憶院 記憶の「国有化」とその政治資源化、ロシア・ユーラシアの経済と社会、査読無、1005巻、2016、17-21

立石洋子、ロシア歴史協会の創設とその活動、ロシア・ユーラシアの経済と社会、査読無、1005巻、2016、40-44

中澤達哉、2015年の歴史学界 回顧と展望：近代ロシア・東欧・北欧、史学雑誌、査読無、125巻5号、2016、358-362

小山哲、17世紀危機論争と日本の「西洋史学」、西洋史学、査読有、260巻、2016、84-96

小山哲、「史学史」の線を引き直す ヒストリオグラフィにおける「近代」をどう捉えるか、史苑、査読無、77巻1号、2016、96-107

DOI: /10.14992/00013229

石田信二、旧ユーゴスラヴィア諸国の学校教科書における国民史と地域史、跡見学園女子大学文学部紀要、査読無、51巻、2016、1-15

<http://ci.nii.ac.jp/els/contents110010051379.pdf?id=ART0010620513>

Susumu Nagayo、When did Bratislava become Bratislava? A Reflection on the Name of a City in the Borderlands (Part II)、Slavic Eurasian Studies、査読無、29巻、2015、45-69

百瀬亮司、歴史学と「公共の歴史」の狭間で ユーゴスラヴィア/セルビア史学の射程と盲点、歴史研究、査読無、52巻、2015、17-38

平田武、ハンガリーにおける民主化のバックスライディング、日本比較政治学会年報第16号『体制転換/非転換の比較政治』、査読有、16巻、2014、101-127

〔学会発表〕(計24件)

Kenta Suzuki、Yugoslavia and the collapse of communism in Eastern Europe: Mass movements and the intra-party confrontations in the socialist federation in late 1988、「境界地域の歴史的経験の視点から構築する新しいヨーロッパ史概念」主催国際ワークショップ「Deconstructing and Negotiating Center and Periphery in European History」(国際学会)、2017年2月04日、東京外国語大学府中キャンパス

吉岡潤、ヴィトルト・ピレツキは何のために戦っていたのか 第二次世界大戦中および戦後初期のポーランド、ポーランド広報文化センターシンポジウム「ヴィトルト・ピレツキ 祖国独立のために闘った英雄」、2016年11月28日、青山学院アスタジオ

Satoshi Koyama、How did people observe and describe extraordinary natural phenomena in the period of the Global Crisis? —Some cases from the documents of seventeenth century Poland、Fifth International Symposium on Human Survivability: “Disasters and Human Survivability: Enhancing Resilience to Risks Threatening the Future of Humanity”(国際学

会) 2016年11月22日、Shirankaikan Inamori Hall, Kyoto University, Japan

Tatsuya Nakazawa, National identity as future aspirations: A case study of the students at Selye Janos University in Komarno, Slovakia – Analysing the results of questionnaires in 2011 and 2014, International Komarno Workshop on Transboundary Symbiosis over the Danube: EU Integration between Slovakia and Hungary from a Local Border Perspective (Part III) (国際学会)、2016年9月12日、Faculty of Education, University of Selye Janos

Satoshi Koyama, The multi-confessional Commonwealth: a reconsideration on the coexistence of different religious groups in the Early Modern Poland-Lithuania, Summer International Symposium 2016 in Vilnius “Entangled interactions between religions and national identities in the space of the former Polish-Lithuanian Commonwealth” (国際学会)、2016年8月22日、Lithuanian Institute of History, Vilnius, Lithuania

Tatsuya Nakazawa, The theoretical basis of the conglomerate formations of the Habsburg Monarchy –Dealing with an emergency in the Kingdom of Hungary–, International Cambridge Workshop on 'A Conglomerate Europe: Rethinking the Early Modern Europe' (国際学会)、2016年8月15日、Sidney Sussex College, University of Cambridge

山本明代、第二次世界大戦期ハンガリーにおけるドイツ系住民の強制移住と地域社会、名古屋歴史科学研究会 2016年大会、2016年5月14日、名古屋大学

〔図書〕(計29件)

渡邊昭子、晃洋書房、地域と歴史学、2017年出版予定(「失われた文書を求めて ハンガリーのノーグラーズ県文書館の場合」)

Watanabe Akiko, Miskolci egyetemi kiadó, Társadalomtörténeti tanulmányok Tóth Zoltán emlékére, 2017, 350(„Társadalmi határvonalak átlépői és átléptetői: Az áttéréses válás módszerének intézményesülése az unitárius egyházban” 114–127)

山本明代・パプ・ノルベルト編、山本明代・木村真・百瀬亮司・山崎信一ほか著、刀水書房、移動がつくる東中欧・バルカン史、2017、360

パトリック・マニング著、南塚信吾・渡邊昭子監訳、彩流社、世界史をナビゲートする、2016、506+148

中澤達哉、山川出版社、礫岩のようなヨーロッパ、2016、221(「ハプスブルク君主政の礫岩のような編成と集塊の理論 非常事態へのハンガリー王国の対応」118–135)

Tatsuya Nakazawa, Vajda Barnabas(ed.), Grafis Media, Forms of Political and Media Propaganda in Central Europe, Czechoslovakia and Hungary (1939-1968)、2016、272

立石洋子、明石書店、ロシアの歴史を知るための50章、2016、400(「スターリン 20世紀が生んだ独裁者」178–183)

小山哲、山川出版社、礫岩のようなヨーロッパ、2016、221(「複合国家のメンテナンス 17世紀のリトアニア貴族の日記にみるポーランド=リトアニア合同」172–191)

小山哲、ミネルヴァ書房、「世界史」の世界史、2016、427(「実証主義的「世界史」」272–292)

ヤーン・ユリーチェク著、長與進訳、成文社、彗星と飛行機と幻の祖国と ミラノ・ラスチスラウ・シチェファークの生涯、2015、334

池田嘉郎、草野佳矢子編、国制史は躍動する：ヨーロッパとロシアの対話、刀水書房、2015、341

小森宏美、ロシア帝国の民族知識人 大学・学知・ネットワーク、2014(「エストニア学生協会と民族知識人の醸成」104–127)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ
<http://hsze.hu>
(ハンガリーでの協力者による歴史家インタビュー)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 昭子 (WATANABE AKIKO)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：20293144

(2) 研究分担者

・吉岡 潤 (YOSHIOKA Jun)
津田塾大学・学芸学部・准教授
研究者番号：10349243
・山本 明代 (YAMAMOTO Akiyo)

名古屋市立大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：70363950

・平田 武 (HIRATA Takeshi)

東北大学・法学研究科・教授

研究者番号：90238361

・長與 進 (NAGAYO Susumu)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：40172564

・中島 崇文 (NAKAJIMA Takafumi)

学習院女子大学・国際文化交流学部・教授

授

研究者番号：90386798

・中澤 達哉 (NAKAZAWA Tatsuya)

東海大学・文学部・准教授

研究者番号：60350378

・小山 哲 (KOYAMA Satoshi)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：80215425

(3)連携研究者

・百瀬 亮司 (MOMOSE Ryoji)

早稲田大学・ロシア研究所・招聘研究員

研究者番号：00506389

・石田 信一 (ISHIDA Shinichi)

跡見学園女子大学・文学部・教授

研究者番号：80282284

・池田 嘉郎 (IKEDA Yoshiro)

東京大学・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：80449420

(4)研究協力者

・山崎 信一 (YAMAZAKI Shinichi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院

院・研究員

研究者番号：80376582

・立石 洋子 (TATEISHI Yoko)

成蹊大学・法学部・助教

研究者番号：00633504

・鈴木 健太 (SUZUKI Kenta)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院

院・特別研究員

研究者番号：00749062

・小森 宏美 (KOMORI Hiromi)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

授

研究者番号：50353454

・木村 真 (KIMURA Makoto)

日本女子大学・文学部・研究員

研究者番号：20302820

・モルナール・ヤーノシュ (MOLNÁR János)

デブレツェン大学・大学院生